

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800220		
法人名	株式会社エルエス		
事業所名	グループホーム香椎下原		
所在地	福岡市東区下原2丁目15番31号		
自己評価作成日	平成26年2月5日	評価結果確定日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4090800220-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成26年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

住宅街の中にありながら広い敷地と自然環境に恵まれており四季の移り変わりを感じられる施設です。敷地内には小規模多機能施設、4月には住宅型有料老人ホームも開設予定です。3施設合同で地域交流を積極的に行い地域の一員となるように目指し当経営者が望んでいる幸せな笑顔、「ハッピーすまいる」を介護理念とし利用者様、ご家族様、職員が幸せな毎日が送れるように頑張っていきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム香椎下原」は小規模多機能と併設型の2ユニットグループホームで、平成24年4月に開設して以来、今年で2年目を迎える。小規模多機能とともに地域一帯を福祉ゾーンのようなイメージで一体的な支援を行う姿勢であり、地域とともに町の活気づくりに貢献することを目指している。毎年の秋祭りは回を経るごとに参加者も増え、昨年は近隣にも広く周知を行い、200人を超える来場もあり大盛況であった。出店や演し物なども協力業者や地域ボランティアの協力もあり、徐々に認知度も広まってきている。行事の参加を通して、地域住民の声も届くようになり、事業も安定して職員の福利厚生への反映にもつながり、人員の定着率も高まっている。日頃の行事などでも外部ボランティアの受入も多く、協力体制が築かれつつある。今後も地域において益々の存在感を示して、地域発展に貢献されることが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に唱和し管理者と職員はグループホームの意義を確認し日々実践に活かせるように取り組んでいる。	法人全体で共有する理念と事業所独自の4つの理念があり、独自理念は開設時に職員と皆で作りに上げた。各所に掲示されるほか、名札の裏にも書かれており、暗唱できるほど馴染みも生まれ、介護に対しての基本的な考え方として共有されている。全体でのミーティングで代表の思いも伝えられ、地域との関わりにも取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、公民館の行事等に利用者様と一緒に参加させていただいています。昨年のホーム主催の「秋まつり」には予想外の地域の方々への参加がありました。今後もホームとしては孤立することなく、常に地域に対して前向きに努力をしていきたいと思えます。	小規模多機能と合同でする秋祭りは地域にもポスティングして告知し、広く開放して行い、200人を超える参加もあり盛況だった。町内会にも加入しており回覧板での案内や情報収集も行い、公民館行事や文化祭にも参加している。幼稚園からの慰問や小学校への車いす貸与などで関わりもあり、相互に協力関係を築いてきている。	秋祭りの案内や地域行事への参加などで、積極的な地域との関わりが持たれているが、今後はグループホームとしての周知や、認知症の理解を深めてもらうために、認知症サポーター活動や、情報発信がなされることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議により、認知症の理解を深めていただく為に認知症に関するビデオ「グループホームで立ち直る人々」の上映や、日常生活状況、事故報告等を報告させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回利用者様の生活の場であるリビングで開催し近況報告を行い地域の皆様、包括支援センターの職員を交え質疑応答等で意見交換を行い、サービスの向上を目指しています。	会議は小規模多機能と合同で行い、公民館長、社協会長、町内会長、家族代表などが出席し、リビングで開催することで、利用者が参加することもある。認知症を知ってもらうために会議でビデオ上映をしたり、防災に関しての相談から訓練参加につながったこともある。会議で地域情報を頂くこともあり、質問や意見も活発に交わされている。	家族参加をさらに増やすために、家族への議事録の報告や、開催案内が全体になされることが望まれる。また、会議に変化をもたせるために、行事との同時開催や食事会など気軽に参加できるような形式のものを検討されてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に福岡市の在宅サービス指導係、公民館長、包括のセンター職員に参加していただき、助言等を受けるなどして協力関係を築くようにしている。	毎回運営推進会議の案内も行い、会議後の議事録の報告もしている。直接訪問する機会は少ないが、相談事などは電話などで行っている。以前行政から見学の依頼があった時は受入も行った。	訪問する機会を増やしていくために、介護申請の手続きや、報告事などコミュニケーションの機会をもっていくことに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し内部研修にて言葉や行動制限の拘束についての話し合いを行い全職員で共有化を図っている。外出願望のある方もいるが玄関の施錠は防犯上夜間のみでセンサー対応をしている。	1,2階も施錠せず、エレベーターを含めて自由に扱え、外出も出来る。徘徊癖のある方も職員と一緒に付き添って無理に引き止めず、落ち着くように支援している。四点柵も使わず、今までにも拘束の例はなく、センサーや見守りによって対応している。毎年の内部研修や外部研修に参加した際も伝達を行い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中やミーティング、全体会議にて内部研修として取り入れ知識の共有に努めている。		

H25自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている利用者が各フロアにいらっしゃいます。全体会議で外部研修報告や内部研修での勉強会を開き必要性を学んでいる。	成年後見制度を利用されている方が2名おり、入居後制度の活用につながった。内部研修を年に1回、外部研修にも参加、伝達を行っている。今後制度利用を検討される方に対しての支援に関して、関係機関とも協力体制を作っている。	制度を説明するための資料や、パンフレットの準備を進められることや、日常生活自立支援事業に関しても研修や勉強会が開かれることが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際利用者やその家族の不安がないように十分な時間を設けて説明を行い、本人、家族からの質問に答えホーム側の意向も十分に説明を行い納得していただいた上で契約をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱の設置、外部機関のポスターを掲示しており、運営推進会議にご家族、利用者様に参加して頂き意見を述べていただいたりしています。又年に4回の「香椎下原たより」の発行をさせていただいています。	昨年から、3ヶ月毎におたよりの発行を始め、利用者の写真などを載せて、日頃の様子をわかりやすく伝えている。家族からの意見は面会時に聞き取ることが多く、遠方の方からは手紙や電話などでやりとりすることもある。外出行事を家族に呼びかけることもあり、コミュニケーションをとることで意見を引き出している。	面会や、電話などで意見を聞き取っているが、より広く意見を引き出していくために、意見箱に意見が入りやすくなるような工夫や、家族アンケートの活用などが検討されていくことにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや定期的に社長同席の全体会議を実施し意見や提案を聞く機会を設け社長同席での会議では問題点が早期に解決が図れています。また必要時個別相談を行っている。	全職員が参加する全体会議が毎月開かれ、各ユニットでの必要な話はミーティングなどでも話し合われる。決済が必要な事などは事前に管理者に伝えることで管理者会議でも話される。会議には社長も参加しており、普段からも個別での相談もし易い雰囲気になっている。意見から感染予防の備品なども手配され、職員の声に迅速に対応する姿勢で運営されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成25年は昇給・賞与支給を実施し、今後も福利厚生の実施に努力している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、性別、年齢などの理由に採用条件から排除せず、定年年齢を70歳までとなっており職員が安心して働けるように配慮している。採用後は資格の取得や研修により、其々の能力を発揮できるようにしている。	職員は20～60歳代まで幅広く、男性職員も配置されている。外部研修の案内や参加希望もとられ、資格取得時などのシフト調整もされている。個別に担当係を決めてレクや、感染予防、記録、物品など能力を見て、適材適所の役割分担をしている。勤務シフトの希望や、休憩時間、場所の確保もなされていた。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当ホームの理念「個人個人に合わせた介護を実践していきます」を掲げていますが、ご本人の出来る事を引き出し、その方に応じた関わりを又尊厳を大切にするように日頃の業務中や会議中に伝えている。	人権に関してのテーマで行政が主催した外部研修や障害を持った方の講演などにも参加している。参加後伝達や資料回覧も行っており、年に1回の内部研修でも高齢者の人権や権利擁護に関して事業所内での理解を深めている。	

H25自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画表を作成し外部研修の参加、内部研修の実施を行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており勉強会や研修に参加しサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関しては居宅支援、いきいきセンター、医療機関の相談員、家族からが殆どである為本人様からの意見を聞き取るには不十分である。入居後には早期にご本人自身からの声や表情等で受け止める努力をしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時、本人面談時又入居申し込時に相談、要望等に耳を傾け不安等の解消が出来るような関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今何が必要か本人、家族と話し合いをし、訪問診療、デイケア、訪問歯科、訪問マッサージ利用を含めたケアプランを作成しサービスの導入を開始している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話などを聞かせてもらい、年齢層の幅の利点を生かしながら、ご本人が役割を持つことを通して他の入居者さまと関わりが持てるように働きかけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他科受診等を無理のない範囲でお願いしたり利用者が家族と関わる事で安心出来る配慮とともに家族も一緒に支えて行く関係を築いていけるようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのデイケア利用の継続や以前住んでいた近所の友達の面会を受け入れることにより今までの関係が途切れないように努めている。	入居時のモニタリングによって関係を聞き取り、入居前から利用していたデイケアを継続して馴染みの関係を続けたり、近隣の知人などが訪れることもある。家族に依頼して来所してもらったりなど、訪れやすい関係づくりに努め、家族協力のもと馴染みの美容室に連れて行ってもらうこともあった。事業所を中心とした馴染みの関係づくりにも努めている。	

H25自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事参加などが苦手な方にはスタッフではなく気が合った利用者が声掛けすることにより、にこやかに参加されることがあるので職員はそのような関係を大事にしている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用解約後も入院中の方などご家族に連絡し近況をお聞きしている。必要に応じて相談や支援が出来る体制作りはしている。しかし、ご家族のいない方に関しては個人情報保護法により関係の継続が出来ない場合がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状況をより細かく読み取る為にアセスメントを補完しました。ご本人、ご家族から希望や要望を聞き取りを行い困難な場合は職員からの意見も参考にし本人様の気持ちに沿った支援を提供している。	以前のアセスメントの様式を改良したことで個別の情報を細かく読み取れるようになった。3～6ヶ月の定期で見直し、入退院などの変化があった時は随時の見直しも行う。家族や周囲との関係にも配慮して情報を聞き取り、職員との関係や日頃の様子も見ながら、本人本位の働きかけを行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前からの生活の流れとしてデイケア利用を継続したり、ご家族様に情報を提供して頂きなるべくこれまでの生活を継続しながらホームでの生活に慣れて頂くように心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活、身体状況を介護記録や連絡ノートに残し毎日の申し送りやミーティングの際に職員間での情報共有をして、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、利用者の状態変化に合わせ、その都度見直しを行っている。サービス内容の実施が出来たかをモニタリングにて毎日チェックをしている。	アセスメントは3～6カ月毎に、ケアプランは利用者の状態にあわせて見直している。一人が1～2人を受け持つ担当制にしている。サービス内容の短期目標を決め実施状況を日勤のリーダーが毎日チェックしている。リーダーは交代制を採用しており、全員がサービス内容の実施状況を共有している。ケアプランはケアマネが作成してる。	担当者会議の記録に、医師や家族からの意見や聞きとった内容を併記すると共に、今後はケアプランの素案作りを担当者が作って、ケアマネがチェックする等の試みを行って職員の意識の高揚に努められることに期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状況は介護記録にケアの実践、結果は毎日のモニタリングチェック表に記録を行い連絡ノートを活用し情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		

H25自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問歯科、訪問マッサージ、外部デイケア利用、訪問美容室、皮膚科往診を取り入れ様々なニーズに対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館との交流、イベントのボランティアの受け入れ、利用者様と地域の方を交えた消防訓練を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の健康管理と共に協力医療機関の定期的な往診、24時間の医療連携を取っています。急変時は主治医へ情報提供を行い指示、指導を頂いている	入居時に家族や本人の意向を聞いているが、殆どが提携医を希望されている。居宅療養管理のもとで、協力医である精神科と内科がそれぞれ週に2日の往診を実施して健康管理をしている。歯科が月に2回、皮膚科が月に1回訪問され口腔指導や爪の処置等に当たって貰っている。整形外科等の受診時は職員が同行している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の看護師とは、当ホームの看護師が中心となって、気軽に相談し合える関係を築いており、助言やアドバイスを受けながら支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ協力医療機関の病院に入院して頂くことで病院関係者との情報交換がしやすく管理者が定期的に面会しソーシャルワーカーと常に連絡を行い出来るだけ早期に退院して頂くように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は対象者はいないが、今後ホームとして(出来る事、出来ないこと)利用者、家族と話し合いを行って行きたい。	入居時に家族に医療行為はできない事などを話して理解して貰っている。現在、ターミナル期の入居者がいるが、ターミナルケアは基本的にできないので、容態が急変すれば救急搬送して病院での看取りとなる予定である。先々取り組んでみたいという考えもあり、まずは外部研修や内部研修等を行うと共に、対応できる職員の体制づくりを進めて行く事を計画している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に普通救命の講習を受けて頂き内部研修としてもAEDの取り扱いの講習を行っている。		

H25自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間想定で年2回の訓練を行っている。地域の方々には運営推進会議の時に声掛けを行い参加して頂きました。	年2回夜間、昼間対応の訓練を実施している。1回は消防署が立ち会っている。運営推進会議での呼びかけや、町内会が回覧板で周知してくれており、地域の方が10人位参加されている。外部研修に参加してAEDの使用方法等も研修している。スプリンクラーも設置しているが、備蓄をするスペースがないので苦慮している。	地域の防災訓練に事業所の職員が参加して地域との繋がりを更に進めると共に、備蓄倉庫の検討を行い最低3日分の備蓄がなされることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳に配慮しプライバシーを損ねないような優しい言葉かけを心がけている。	年長者を敬うような言葉遣いを心掛け、入居者に合わせて対応しており、気になる言葉遣いがあれば、その都度管理者が指導している。接遇マニュアルで研修し、外部研修の報告研修も実施している。ニュース等に掲載する写真については入居時に家族の了解を得て掲載している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	その日の体調や気分に合わせて職員からの働きかけを行い、その日の過ごし方が出来るように支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大体決まっているが、当ホームの理念「個人個人に合わせた介護を実践します」にあるように利用者様の状態は把握しているので、その方に合った対応をし無理強いせずに希望に沿った支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容が毎月1回ある。居室に洗面台があり、鏡を見る機会が多く整髪や髭剃り等おしゃれが出来るように支援をしている。又外出する際は服を選んでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回はパン食にしたり、行事食を取り入れたり、利用者の希望でホームで頂けないものは外食レクを利用している。毎食利用者と職員と一緒に調理、下準備等利用者の能力に合わせて行っている。	業者の食材を使って職員が交代で調理し、職員も一緒に食べている。週に1回はパン食にして、シチューを作ったり、季節に合わせた手料理も作っている。2カ月に1回は家族に声を掛けて外食レクを実施し、回転寿司等を食べたり、花見の時には弁当を購入して戸外で食べる等、食べる楽しみ大切にしている。利用者も能力に応じて手伝いをされていた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表で確認し必要量は確保できるようにしている。食事はメニュー、材料は外注でカロリー計算されており、作るのはホームなので、その方に合わせた量、形態で対応している。		

H25自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに注力すると共に歯科医、歯科衛生士の訪問により、口腔ケアや磨き方の指導や治療が受けられるように支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに記録を行い個人個人に合わせて時間帯で声掛け誘導を行っている。また、ご本人のしぐさをキャッチし、さりげなくトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に基いて各自のパターンを把握し、トイレ誘導を実施している。頻尿で、トイレ以外で放尿していた利用者が、2時間毎のトイレ誘導と声掛けによって放尿がなくなり、リハパンツからショーツを使用できるようになったり、夜間の声掛けや誘導によって自立できる人が増えてきている。連絡ノートや申し送り時に職員間の意思の疎通を図り状態を共有している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のコップ1杯の冷水飲用や軽体操や散歩など体を動かす働きかけを行い自然排便が出来るように支援している。又主治医と連携をとりながら必要時薬を使用することもある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂は沸かしており、週3回は入浴出来るようにしている。予定表はあるが本人の希望に沿っている。又入浴剤で色や香りを楽しんでいただいている。	週に3回、午前中の中の入浴が基本だが、レクの都合などで午後になる事もある。2・3種類の入浴剤を使って色や香りを楽しんで貰っている。拒否が強い人には、入浴後にコーヒーを飲み誘ってみたり、職員によっては入れることもあるので交代したり、と色々な対策を講じて、少なくとも週に1回は入浴できるように努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間はないが、音、照明を少しずつ落としながら、安眠できるように配慮し、なるべく薬に頼らないように支援し日中も自由にソファや居室で休眠出来るようにしている。又眠れない時は傾聴しながら、ホットドリンク等を提供している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬表をファイルしており、詳細は職員が確認できるようにし最後の飲み込み迄確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自出来る事を手伝っていただき外出や買い物等で気分転換が出来るように支援している。		

H25自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、天気具合のよって外出の予定日でも、ドライブがてらのコーヒータムに出かけたりデイクアや家族協力のもと外出されることもあります。	近くに公園はあるが坂道が多いので、園庭を散歩して貰っている。気候が良ければ園庭に面したテラスでコーヒータムをとることもある。2カ月に1回は外出レクを企画し、少人数に分けてドライブに出かけたり、花屋で季節の花を楽しんで貰っている。車椅子の方も個別で対応しコーヒータムを飲みに行ったりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者様はレベル的に自己管理は難しくホームにて管理しているが数人の方はご自分でお小遣い程度の金額を自己管理しておられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは行っている。手紙を書くことは難しく、来た手紙などを読んで差し上げる支援は行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が広く全体が明るくカーテンにより、光や温度の調整をしたりしている。童謡やクラシック、懐メロなどの音楽を耳障りにならない程度に流しています。季節に応じた壁面工作、お花を飾ったり工夫している。	南に面したリビングには冬の日差しが差し込んで、ほっこりとした明るい雰囲気漂っていた。壁面には季節に合わせた飾り付けが施され、お雛様や桜の花が春の訪れが近い事を感じさせていた。懐メロやクラシック音楽が程よく流れていて居心地の良さを実感させていた。トイレや浴室も使い易く設定されていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに腰かけて、利用者様同士談話されたり、玄関や廊下のソファに腰かけられたり思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の状態を見ながら、家族に相談しながら可能な範囲で、危険がない馴染みの家具や布団、写真や小物などを持ち込んでいただくことで違和感なく、居心地良く過ごせるように工夫している。	フローリングに緩衝材が使われていて、滑りにくくなっていて高齢者に対する思いやりが感じられた。使い慣れた家具や仏壇、家族の写真、お茶のセット等が自由に持ち込まれていて、自宅で過ごしているような安心感と居心地の良さが感じられた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには本人の名前を、トイレには(便所)と掲示し、出来る範囲のお手伝いなどをして頂き、自立した生活が送れるようにしている。		